

法 医 学

科目責任者 黒 須 明

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

法医学は法律上問題となる医学的事項について研究する社会医学の一部門である。したがって、社会が複雑化するにつれ、また人権意識が浸透するにつれて、法医学の包括する範囲も急速に拡大しつつあり、単に、司法上・行政上の寄与（損傷の成因、死因、死後経過時間の判定、自他殺または災害死の別の判断、既存疾患と外傷および中毒や医療行為との関係、個人識別、親子鑑定、血痕などの物体検査）のみならず、日常臨床にも深く関与している。

講義では、臨床医学に必要な法医学的・社会医学的問題解決能力を身につけることを第一の眼目とし、突然死、外傷学、中毒学といった臨床医学で必要な基本的問題について事例をふまえて紹介する。

II. 担当教員

教授	黒 須 明	法医学
学内講師	村 松 尚 範	法医学
助教	山 内 忍	法医学
特任教授	齋 藤 一 之	医学部
非常勤講師	松 川 岳 久	順天堂大学薬学部
非常勤講師	長 井 敏 明	法医学

III. 一般学習目標

- ・人の死には内因死、外因死と不詳の死があることを学び、その区別の重要性について理解する。
- ・内因性急死のメカニズムおよび急死をきたす疾患について理解する。
- ・外因死の種類について基礎的知識を得る。
- ・広義の損傷について学び、その内容と区別の仕方を知る。
- ・小児虐待、嬰児殺、性犯罪および各種中毒死について理解する。
- ・遺伝標識の種類と応用例についての基礎知識を得る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 解剖の種類（系統解剖、病理解剖、法医学解剖としての司法解剖および行政解剖）とそれぞれの目的、内容、承諾の要否について説明できる。
- 2) 内因性急死をきたす諸疾患について理解し、そのメカニズムを説明できる。
- 3) 外因死の種類（交通事故、転倒、転落、溺水、煙、火による障害、窒息、中毒、自殺、他殺、その他）について説明できる。
- 4) 損傷の名称、性状、メカニズムについて学び、それらを説明できる。
- 5) 急性中毒死する物質について学び、それらの毒作用および死体所見について説明できる。
- 6) 個人識別（性別、年齢、国籍、血液型、DNA型、身体特徴など）の着眼点について説明できる。
- 7) 遺伝の方式を説明できる。
- 8) 血液型の重要性について例を挙げて（輸血、妊娠など）説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	4	7	火	2	法医学総論	黒 須 明	1
2		7	火	3	死体現象	黒 須 明	1
3		7	火	4	突然死1	齋 藤 一 之	1
4		7	火	5	突然死2	村 松 尚 範	1
5		14	火	1	外傷総論	黒 須 明	1
6		14	火	2	頭部・胸腹部外傷	黒 須 明	1
7		14	火	3	交通外傷	村 松 尚 範	1
8		14	火	4	窒息	村 松 尚 範	1
9		14	火	5	異常環境による障害	村 松 尚 範	1
10		17	金	1	死後画像診断	村 松 尚 範	1
11		17	金	2	小児に関する法医学	齋 藤 一 之	1
12		17	金	3	個人識別	山 内 忍	1
13		17	金	4	遺伝標識1	山 内 忍	1
14		17	金	5	遺伝標識2	山 内 忍	1
15		21	火	1	中毒学総論	松 川 岳 久	1
16		21	火	2	中毒学各論1(濫用性薬物)	松 川 岳 久	1
17		21	火	3	中毒学各論2(農薬, その他)	松 川 岳 久	1
18		21	火	4	中毒学各論3(アルコール中毒)	黒 須 明	1
19		21	火	5	死亡診断書・死体検案書	黒 須 明	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

- ・出席状況 (欠席回数に応じて減点する)。
- ・前項で「説明できる」と書いた事項が最低限理解しなければならないものであり, 当然, その評価には高い水準が要求される。
- ・各回の講義で紹介する実症例を十分理解すること。これらの一部は試験で出題する。
- ・定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅳ」の評価として集計される。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

- 指定図書「法医学 改訂第3版」南山堂
「標準法医学 第8版」医学書院 (電子教材)
- 参考書 「臨床中毒学」医学書院
「新訂 死体の視かた」東京法令出版

「検死ハンドブック 改訂第2版」南山堂

「医事法学・法医学」メジカルビュー社

VIII. 質問への対応方法

適宜質問を受け付ける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	○
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験結果の問題点（正答率の低い設問等）について講評します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載がない場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

GE-03-01-03, GE-03-02-01, GE-03-03-02, GE-03-06-01, PS-01-04-01, PS-02-07-01, PS-03-05-04,
PS-03-05-06, PS-03-05-08, PS-03-05-09, PS-03-05-10, PS-03-05-12, PS-03-05-13, CS-02-03,
SO-03-01-01, SO-03-01-02, SO-03-01-03, SO-03-01-04, SO-03-01-05